

# 表彰団体紹介



## 赤とんぼ村 自然体験スクール

二丈町



山の中から切ってきた竹でソーメン流し

二丈町の浮嶽山うきだけ標高200メートルにある自然豊かな「赤とんぼ村」で、小学生を中心に自然体験キャンプやキャンプ通学などさまざまなメニューのキャンプを年間を通して実施しています。「強く、たくましく、心豊かに」を合言葉に行われるキャンプは、テレビや携帯電話もなく、みんな一緒に寝袋で寝る生活です。登山、川遊び昆虫採集など自然と触れ合う経験を通して、自然に対する驚き、畏怖の念、感動する心があります。

また、親元を離れ、自分のことは自分で行うという経験をすることで、家族のありがたみを実感するとともに、異年齢の子どもたちが寝食を共にする中で、学年や学校に関係なくお互い協力し合うようになっています。

ゆっくりとした時間の流れの中での体験や交流は、子どもたちにとって自分の良さを発見するきっかけとなり、やる気や自信を育んでいます。



代表  
藤井 秀重

## 小郡七夕 バンブーオーケストラ

小郡市



まずは竹1本から…夏休みの練習風景

竹を材料にした6種類の管打楽器を使ったオーケストラで、小郡校区の小学生から50代までの幅広い年齢層のメンバー50名で構成されています。使用する楽器のうち5種類は、地域の方たちに手伝っていただきながらメンバー自身が手作りで、子どもたちも楽器作りに参加し、良い音色が出るまで時間をかけ、試行錯誤しながら完成させています。

設立から4年が経過したことで、活動が地域に知られるようになりました。毎年開催している「くすのきミュージックフェスタ」のほか、さまざまなところからの演奏依頼に応え、竹の楽器のあたたかな音色を披露しています。練習では、メンバー同士年齢に関係なく教え合う中で向上心が生まれ、自主性や集中力が高まってきました。

20年度からは「ケーナ」と「篠笛」という楽器を使って、中学生メンバーによるアンサンブルの演奏活動も行っています。



代表  
荒川 秀毅



## 児童劇団つばさ

小郡市



平成20年 第22回定期公演の様子

立石小学校の児童を中心としたメンバーで構成され、昭和63年の設立以来「自然と郷土を愛する心」をテーマにオリジナルミュージカルを上演しています。

子どもたちは、週2回、定期公演に向けて練習に取り組み、高学年の子が自発的に低学年の子の世話や指導をする姿も見られます。おとなしい子もいろんな経験を重ねていくうちに自己表現ができるようになり、学校でも自分の意見が言えるようになりました。大舞台上で演じることや、みんなで一つのものを作り上げる経験を通して子どもたちは達成感や喜びを感じ、自分に対する自信へとつながっています。

劇団設立当初から公演活動だけにとどまらず老人福祉施設への慰問も続け、大変喜ばれています。また、地域の行事、清掃活動や平成16年に開設された「くろつちアンビシャス広場」にも保護者とともに積極的に参加し、地域の人々との交流もより深まっています。



代表  
福田 大輔

## 西新チルドレンズ ミュージアム実行委員会

福岡市  
早良区



中学生スタッフと、まが玉づくりに挑戦中

早良区を中心に、企業、大学、地域住民などが実行委員会を組織し、それぞれのノウハウを活かした科学や自然現象の不思議さを子どもたちに体験させるワークショップを開催しています。

子どもたちがさまざまな発見をしながらこれらの体験メニューに取り組む中で、粘り強さや目標を持って努力する姿勢が見られるようになるとともに、異年齢の交流や、親子参加を通しての親子コミュニケーションも促進されています。

地元PTA、おやじの会などを巻き込んでの地域に根ざした活動に加え、大野城でのNPO法人との共催や、宗像での協力支援など活動の幅が県内各地に広がっていく中、20年度からは実施にあたって中学生に事前研修を行い、参加者の指導にあたるというジュニアリーダー養成の取り組みも始まりました。



代表  
大瀨 順彦

## 直方少年少女合唱団

直方市



共演に向けての振り付け練習

直方市内の小学生から高校生までの幅広い年代で構成される合唱団です。昭和60年、文化・芸術の振興を目指して設立されました。年に一度の定期演奏会のほかに地域のイベントや他団体の演奏会への出演など、積極的な活動を行っています。

団員同士切磋琢磨する中で、自分たちで選曲や振り付けに関わるなど主体的に活動するようになり、自主的にコンクールに参加するなど、向上心を持った取り組みが見られるようになりました。20年10月には高校生でグループを結成し、県民文化祭ヴォーカルアンサンブル・フェスティバルに出場、練習の成果を発揮し、「審査員アンコール賞」を受賞しました。

毎年出演している九州工業大学交響楽団定期演奏会においてイイツカコスモスコモン少年少女合唱団と共演する際には、演奏会に向けた練習や振り付けを一緒に行うなど、演奏活動を通じて他団体とも交流を深めています。



代表  
川波 壽



## 青葉 アンビシャス広場委員会

福岡市  
東区



多々良川でのカヌー練習

青葉小学校や公民館で週4日間所しています。100人が集う土曜日の自由遊びのほか、曜日ごとに太鼓、カヌー、バレーボール、読み聞かせなどさまざまな体験活動も行っています。なかでもカヌーは、福岡市の大会で準優勝するなどの好成績を挙げています。

自由遊びでは、中学生が道具の準備から後片付けまで率先して行うなど大人からも頼りにされるリーダーとして育っており、体験活動では、上級生が下級生に指導するなどの積極性が見られます。また、広場での活動の中で、自分からあいさつしたり、我慢することを覚えるなど社会性が自然と身につけてきています。

校区公民館を中心に、PTA、自治連合協議会等の連携のもと、「地域ぐるみで子どもを育てる」運営体制を確立し、企画・運営を子どもに任せると子どもにも大人にも魅力ある広場づくりを行っています。



代表  
駒井 重美

## つやざき アンビシャス広場委員会

福津市



キャンプでのスイカ割りの後の一コマ

津屋崎小学校で週3日間所しています。地域を大切にできる子どもの育成を目指し、PTAや保護者、地域ボランティアなどが連携しての広場運営を行っています。保護者にアンビシャス広場への理解と参加を促すために説明会も実施しています。

子どもたちが中学生・高校生になっても広場に関わってほしいとの思いから、夏休みに広場の子どもたちが校区の中学校を訪れて、中学生とふれあう活動にも学校と連携して取り組むほか、平成20年度からは、生き物観察や地域探索など子どもが企画する体験活動「アンビ塾」を開始しました。

子どもたちは、自由遊びや、海と山に囲まれた自然環境を活かした体験活動を行う中で、主体性・自主性が高まり、高学年を中心にリーダー性が育ってきました。広場でいろんなイベントを行う際には、中学生がスタッフとなって参加し、小学生のサポートを行っています。



代表  
宗岡 尚子

## のぶなが アンビシャス広場委員会

行橋市



シュークリーム作りに挑戦！

延永公民館で週2日間所しています。子どもたちは思い思いに自由遊びを楽しんでおり、開所日以外でも子どもの遊ぶ姿が見られます。延永公民館を中心に、区長会、子ども会、学校などが積極的に関わり、自由遊びのほか、昔遊び教室、ふるさと歴史探訪など、さまざまな体験活動を行っています。なかでも公民館を利用した宿泊合宿や料理教室では、子どもたちが食材購入から帳簿付けまで行っています。

活動中での失敗体験は貴重な経験となり、子どもたちは失敗から学び、話し合い、工夫するようになりました。遊びを通してルールを身につけ、進んであいさつをするなどの社会性も身につけてきています。

延永小学校区の子どもたちを対象としていますが、校区の範囲が広く、普段広場に来れない子どもたちのために、夏休みに校区内の自治公民館で体験活動を行う「出前アンビシャス広場」も実施しています。



代表  
福田 加壽美



## 松原 アンビシャス広場委員会

大牟田市



新米のこはんで、おにぎり作り

大正小学校で週2日開所しています。子どもたちに遊びやイベントの企画・運営を少しずつ任せた結果、参加する子どもが増え、対象小学校の約4分の1の児童に加え、他の小学校や隣接する中学校の生徒も遊びに来るなど、地域の子どもの居場所として定着しています。

子どもたちは小学校のミーティングルームを中心に校庭や体育館などで自由に遊び、異年齢で集団を作り遊ぶ姿も多く見られます。また、松原おやじの会、PTAや地域など約100名のボランティアが交代で子どもたちを見守り、地域ぐるみの安定した広場運営を行っています。

子どもたちには自ら創意工夫しながら遊ぶ姿が定着し、異年齢交流を通して高学年に責任感やリーダーシップが身につけてきました。広場主催の500人規模の「ふれあいコンサート」では、子どもたちは出演するほか、司会や裏方の仕事を担っており、自主性・社会性の向上が見られます。



代表  
佐藤 健

## 水田校区 アンビシャス広場委員会

筑後市



開所式での竹馬競争大会

水田小学校で週4日開所しています。見守りボランティアを7行政区が責任をもって担い、PTAが規約に広場の企画・運営を盛り込むなど、地域や保護者が積極的に広場活動に関わっています。

子どもたちは太鼓や相撲、竹馬などの体験や遊びの中で、上級生が下級生の指導を行うなど、自主性やリーダー性を身につけています。

また、歴史ある地域の特性を活かした活動にも取り組んでおり、子どもたちは、地域の伝統行事、偉人、史跡などについて勉強し、地元行事でその成果を発表したり、水田天満宮神幸祭の稚児風流の奉納など地元の祭りにも参加しています。こうした活動によって、子どもたちには郷土愛が育つとともに、地域の伝統を守り続けていこうという意識が芽生えています。

大人たちには、広場活動をきっかけとして地域と関わることの楽しさや地域の活性化を図る意識が高まっています。



代表  
久保 常友



青少年アンビシャス運動シンポジウム  
主催 青少年アンビシャス運動推進本部